

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十五年五月度 入選句 (投稿総数千百五十句・小中生投句数五百九十五句)

特選 選者 説田 祐子

たらい舟 さくらが 見送り 出発だ 大垣市 金谷 莉奈(小五)

大垣の風物詩となったたらい舟。作者はちょうど桜が満開の頃にたらい舟にのつたのでしよう。周りには桜見物の人やたらい舟を待つ人も大勢いたことでしょう。そんな中で「さくらが見送り」ことさくらに焦点を当てていることによつてたらい舟への乗舟をより印象づけています。まさにこの季節ならではの情景が目に浮かびます。

こいのぼり 家族のみんなはなれない 大垣市 川瀬 英理香(小四)

五月の風を受けて大空に泳いでいるこいのぼり。歌にもあるように上からまごい、ひごい、子どもごいと家族が揃って泳いでいる。ひもでつながれていることもあつて、どんなに強い風が吹いてきても決して離れることなく、たまには強い風を受けてお互いのからだがからみ合ったりねじれたりすることがあつても風がおさまるとまた元のように親子のこいが仲よく泳いでいる。そんなほほえましさが伝わる句です。

しりとりを続けておわらぬ春遠足 大垣市 安田 篤司(小六)

春の遠足は文字通り少し遠い所へ歩いて行くことが多いですね。目的地に着くまでの長い道のり。みんなでしりとり遊びが始まったのですね。しりとり言葉は順調につながつて、くり返しくり返し順番も回ってきたのでしよう。それでもなかなか目的地には着かない。早く着かないかなと思いつつも初夏の野道をみんなと仲よくしりとりをしながら遠足を楽しんでいることが伝わってきます。

秀逸

かしわもち はっぱのにおいも 食べちゃった 大垣市 高橋 百子(小四)

ふじの花 ははの だっこで とどいたよ 大垣市 三輪 奈海(小四)

さくらさんに ゆうがくしきに ちらないで 大垣市 杉原 勇次(小一)

友だちと いっきに 引くぞ 春のやま 大垣市 大橋 佑香(小三)

おこられて 見上げて みれば こいのぼり 大垣市 芦野 涼也(小三)

かえるの 子朝か 朝かと さわいでる 大垣市 吉岡 杏紗(小三)

しろつめくさい っぱいさいて 大家族 大垣市 浅野 聡美(小三)

つばめの 巢 新たな 命 顔出して 大垣市 酒本 瞳(小五)

新学年 昨日の ぼくと 何かちがう 大垣市 川地 翔太(小五)

青虫が キヤベツの 中で かくれんぼ 大垣市 森 巧 充(小四)

入選

こどもの日かぶとをつくってじまんする 大垣市 川瀬 英理香(小四)
 おどってる風と仲よしこいのぼり 大垣市 西脇 楓華(小四)
 カーネーションの絵をかき母にプレゼント 大垣市 古田 晏寿(小四)
 風が出ておよげてうれしいこいのぼり 大垣市 石司 淳果(小四)
 パンジーがお顔ならべてわたし見る 大垣市 三輪 奈海(小四)
 ふじの花ジャンプでとどく花のさき 大垣市 川合 乃愛(小三)
 かえるさんたいこにつられてとんできた 大垣市 川合 凌矢(小五)
 みつばちがどの花とまろうとびまくる 大垣市 高田 滉平(小五)
 ふじのはなぶどうだったらいいのにな 大垣市 高田 滉平(小五)
 さくらもちかかってかかってとならん 岐阜市 三輪 芹奈(小三)

入選

風かおるはっぱのにおいがとんでくる 大垣市 日比野 未来(小三)
 みどりの葉風にふかれ歌ってる 大垣市 堀家 菜々子(小三)
 風がふきみどりの葉っぱおどりだす 大垣市 日比 柊斗(小三)
 風かおる木の下とおりスキップする 大垣市 藤墳 龍紅(小三)
 さくらの木ピンクのふくがなくなった 大垣市 久世 美羽(小三)
 新学期私もさくらも開花した 大垣市 金谷 莉奈(小五)
 顔出したたけのこの根にくわあてる 大垣市 吉岡 舜将(小五)
 きんちようし会話ができない新入生 大垣市 古野 紗衣(小五)
 大空に手をひろげては春遠足 大垣市 高橋 紫音(小六)
 けんかして少しさみしい春の夜 大垣市 梅村 みずき(小五)
 えんぴつがころころまわる春の夜 大垣市 岩田 直也(小四)

選者吟

句をつくる児らに若葉の風が吹く

説田 祐子